



小川小学校

HP:<http://www.ogawa-e.murakami.ed.jp>

令和4年12月15日

〒958-0268

村上市小川1-4

TEL:0254-52-2723

FAX:0254-52-4327

『つながる楽しさ』

校長 佐藤 進

11月25日に小川フェスティバルが行われました。お化け屋敷や輪投げ、ボウリングなど、それぞれの縦割り班で趣向を凝らし、とても楽しいイベントになりました。残念ながら、今年も保護者・地域の皆様にはご参加いただけませんでした。子どもたちの笑顔があふれ、生き生きと活動する姿がたくさんありました。

「学校で1番楽しい行事は何ですか？」と子どもたちにアンケートを取ると、決まって1番になるのがこの小川フェスティバルです。子どもたちにとって何が魅力なのでしょう。私が思うには、次の3つの要素が含まれているからだと思います。



1 みんなで作り上げるわくわく感

最初に、今年の小川フェスティバルでどんなお店を出すか、縦割り班の全員が集まって相談します。お店の内容が決まると6年生が中心となり、1年生から5年生までの役割を決め、様々な小道具等を準備します。ある班はひたすら新聞紙をちぎる、またある班では段ボールをつなげる、入り口の看板を作るなどやる仕事は多岐にわたっています。高学年が下学年の希望を取り、一人一人が活躍する場をつくります。班のみんなで協力し、よりよいものにしていこうとわくわくしながら作り上げる過程が1つの魅力なのでしょう。

2 楽しませる喜び

当日は、前半と後半のどちらかで店員となり、みんなを楽しませる役目を担います。来場スタンプを押す子、やり方の説明をする子、呼び込みをする子、得点を数える子と、一人一人が役をもち、遊んでなんかられません。どの子もお客さんを楽しませようと必死です。「みんなが喜んでくれた」という充実感を得られることが2つ目の魅力ではないかと思います。

3 お客さんとして参加する楽しさ

3つ目の魅力は、何といたってもお客さんとして参加することです。スタートの合図とともに、子どもたちは一斉に目当てのお店を目指します。高得点を狙っての的を選んだり、ドキドキしながら暗い部屋を歩いたりしながら、わくわくドキドキをたくさん体感し、満足した時間を過ごせたのではないのでしょうか。

「友人や仲間といて楽しい」「交流することが楽しい」など「つながり」を感じられると脳からオキシトシンという幸福物質が分泌されるそうです。子どもたちにとって小川フェスティバルは、まさにそんな幸福物質があふれ出る幸せな時間となりました。これからも、コミュニケーションや交流をとおし、つながりが楽しいと思える学校をつくっていききたいと思います。

「鮭の塩引きづくり」を体験しました

11月22日（火）に、4年生が総合の学習で恒例の塩引きづくりをしました。地域コーディネーターの板垣英一さん、ボランティアの皆様にご指導いただきながら、楽しく貴重な体験をしました。

鮭を捌くことはしませんでした。大きな鮭に触るのは初めての子も多く、大変興味深い様子で、一生懸命塩を塗り込んでいました。これを機会に、村上の伝統の鮭に興味をもち、大人になっても塩引きづくりをする「村上人」になってもらいたいものです。



いじめ見逃しゼロスクール集会2022 開催

11月11日（金）に、校内で「いじめ見逃しゼロスクール集会2022」を行いました。

スローガン「育てようやさしさの種 咲かせよう思いやりの花」の唱和の後、4年生が、教室で起こった一場面をもとにしたいじめの劇を演じ、その後「何が問題だったのか」「どうすればよかったのか」「これからどうしていくのか」を縦割り班で考えました。「もっと優しく言えばよかった」「いやな気持ちになっても大声を出したりしてはだめだよ」

「いじめは絶対にだめだよ」と、劇を見て思ったことを共有し、いじめをしない、許さないことを全員で確認しました。



「社会を明るくする運動標語優秀作品」入賞

社会を明るくする運動新潟県推進委員会が主催する標語の募集があり、多数が優秀作品に選ばれました。子どもたちが願っている明るい社会が、素直な言葉で見事に表現されています。誰もが安心して過ごせる社会になってほしいですね。入賞おめでとうございます。

5年 板垣明希さん

“やさしさで あふれた社会を つくろうよ”

5年 高橋 奏さん

“あいさつで みんなに笑顔を 広げよう”

6年 齋藤結衣さん

“つくろうよ いじめやさべつ ないまちを”

6年 櫻田汐莉さん

“どうしたの” 話してみよう 心の叫び”

6年 佐藤 晶さん

“目指そうよ 楽しく暮らせる 平和な世界”

